TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

エフェソの信徒への手紙 -恵みのスペクトル 力を現す目

エフェソの信徒への手紙 1:15-23

2025 年 7 月 26 日 & 27 日
ジェシー・セザリオ 牧師

I.　ご挨拶

TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、スバ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さんを含め、共に礼拝をささげているすべての皆さんにご挨拶を申し上げます。私たちの父なる神と主イエス・キリストの恵みと平安が、皆さんと共にありますように！
祈りましょう。

最近、平日に TBC に向かうため出発したときのことです。車に乗り込もうとしていたら、外に自転車やいろいろな物が出ていて、それをちょっと片付けてから行こうと思いました。私たちは東京の、ほぼ埼玉との境目の地域に住んでいて、近くには畑として使われている土地もいくつかあります。だから、地面がけっこう砂っぽいのです。

特に何も考えずに車に乗り込み、そのまま出発しました。運転していると突然何かが目に入って、すごく不快な感じがしました。信号待ちのときにミラーで見てみたら、やっぱり大きなまつげが入っていました。
それを取ろうとして、自分の指を見ると、自転車などを動かした時の泥にまみれていました。そんな状態の指では何も触れません。どうすることもできず、しかもそのときは青梅街道の真ん中で、どこにも車を止められる場所がありませんでした。
結局、その朝 TBC に着くまでの約 1 時間の間、それを我慢するしかありませんでした。なんとか到着し、手を洗ってその厄介なまつげをようやく取ることができたとき—あれほど気持ちのいい瞬間はありませんでした。

さて、皆さんはキリストに出会ったとき、福音を聞いてイエスに従い始めました。皆さんの目には梁があって、そう、それは取り除かれました。そして、見えるようになった！私の言っている事お分かりになりますね。
イエス様と歩み始めてから、皆さんはあることに気づきました。目の中に異物を感じるようになった。そして迷わず自分の指を目に突っ込みました。自分でそれを解決できると思って。しかしそれは間違いでした。なぜなら、今では他のいろんな問題まで一緒に目に入り込んで、むしろ状況が悪化してしまっているからです。

これは多くの人に起こります。私たちはこの段階でつまずき、解決策がないように思えます。実は解決の道はあるのですが、残念なことに私たちはその方法についていくつか誤解をしています。なぜなら実際に解決は可能だからです。
まさにそれこそがパウロがここで語っていることです。

さて、前にお話ししました 3 節から 14 節は、長い一文です。そして今日の箇所 15 節から 23 節もまた、長い一文で構成されています。3～14 節は doxology（頌栄）、つまりキリストによって私たちが受けている霊的祝福を賛美する言葉です。
そして、15～23 節は「祈り」、これはクリスチャンがその霊的祝福を見て理解できるようになるための、とりなしの祈りです。

このパターンに注目してください。パウロの賛美が最初に来て、次に彼の祈りです。彼は私たちに礼拝の仕方を示しているのです。
賛美はいつも最初に行われます。賛美はとりなしの祈りの前に行われ、そして賛美は神の知恵が啓示される前に行われ、また神の御前で義とされるより先に賛美は行われ、そして神の栄光を表すため人生の中であらゆる力を授かる前に、賛美が行われなければなりません。

このパウロの祈りはまさにそのためのものです。彼は、私たちが神の栄光を表す人生を生きるように、そしてさらに、それがどのように実現されるべきか祈っています。
これは私たちが行うべき祈りです。つまり、神様が私たちに与えて下さるようにパウロが祈っているそのものを私たちが受けるために、パウロのこの祈りを私たちも捧げるべきです。
認識できないものを受け取ることはできません。そして私たちは、悪魔が目の前で隠しているものを見ることができません。

しかし、良い知らせがあります。これまで戦ってきたその問題こそが、これから私たちを強くしていくものでもあるということです。悪魔はそれを使って、あなたを打ちのめそうとしてきましたが、主はあなたが勝って成長するために、それを用いられました。

考えてみてください。私たちの弱さは私たちを簡単に沈めることができますが、それを乗り越えたときに私たちを強くするのです。
こういうわけで、主の知恵はあらゆる支配や権威の知恵を欺きます。悪魔があなたを傷つけようとして企んだことを、神は多くの人々を救うために、あなたへの良いご計画として用いるのです。
今日のメッセージの中で、このことを心に留めておいてください。

今日は、三つの誤解を取りあげながら、キリスト・イエスにあって私たちが本当に持っているものと、今後受け継ぐ祝福の相続について話します。
では、パウロが何を言っているのかを見ていきましょう。

誤解その1：エバの果実

「17 私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、あなたがたに知恵と啓示の霊を与えてくださいますように。そして、あなたがたが神を深く知ることができ、」
ここで注目してほしいのは、パウロが何を願っているかです。彼は、私たちに知恵と啓示が与えられるようにと祈っています。では、その知恵と啓示はどこから来るのでしょうか？
こう思った方も多いかもしれません。「それ、ヤコブの 1 章にあったような…？いや、4 章？いや、5 章だったかも…」

しかし、ここ 17 節にはこのようにはっきり書いています。知恵と啓示の霊は、「すでに私たちにあるキリスト」に基づいて、神から与えられるものです。ところが、私の経験では多くの人が逆のことをします。聖書の知識を追い求めることで知恵が与えられると思ってしまうのです。
これは、エバの時代からずっと続いている問題ですが、エバの子孫である私たちにはおそらく見えていなかったでしょう。

コリントの信徒への手紙一 8:1「知識は人を高ぶらせる」ある意味で、知識は危険なものでもあります。
私たちがずっと信じ込まされてきた偽りはこうです。もっと多くを知れば、立派なクリスチャンとして振る舞うことが出来る。それは真実からほど遠いものです。知識とはそういうものではありません。
真実はこうです。私たちが神の前に進み出れば出るほど、御霊に導かれた祈りにより、本当の意味でより知恵深くなるのです。ですから、ヤコブの手紙 1:5「あなたがたの中で知恵に欠けている人があれば、神に求めなさい。」これこそが、私たちの限られた知恵ではなく、神様の知恵を得るための祈りなのです。

まず賛美して、そして祈ります—神に願い求め、信じ、受け取ったものに感謝します、もし自分が求めていたものと違っていたとしても、です。

さて、ここで多くの人が思うでしょう、どのようにただ単純に祈って信じることができるのか。自分が間違っていないとどうして分かるだろうか。

1999 年、ダニングとクルーガーという 2 人の学者が、後で「ダニング＝クルーガー効果」と呼ばれるようになったある研究を行いました。この研究では、まず参加者にいくつかのテストを受けてもらい、最後に自分がどのくらいできたと思うか自己評価をさせました。よくできた人たちは、自分の出来を低く見積もり、よくできなかった人たちは、自分の出来を過剰に高く評価していたのです。

この理由は興味深いものです。良い成績を収めたにもかかわらず悪い出来だったと思った人々がこのように評価する理由は、彼らが自分の知識の範囲を超えた、おそらく自分が知らないであろうことを認識できるからのようです。

もう一方のグループ―実際には成績が悪かったにもかかわらず、素晴らしい出来だったと思った人々―は、正しい答えを得るのに必要な知識とスキルが、適切な評価を下すのに必要な知識とスキルと同じものであるため、自分をより良く評価したのです。
言い換えれば、知れば知るほど、自分が知らないということが見えてくることです。そして知らなければ知らないほど、自分が何を知らないかに気づきにくくなるのです。

私たちが「ダニング＝クルーガー効果」から逃れる方法は本当に存在しません。それは必然的で回避不可能なものです。自分が知らないことを悟ることも、決して知り得ないことに気づくこともないでしょう。これは大きな問題のように見えます。というのも、ただ知恵を求めて祈ったとしても、自分に与えられたものが本当に知恵なのかどうか、知ることができないからです。間違った選択をして、愚かに見えるかもしれません。
知恵が与えられるように祈ったあとで私たちが下した決断が、神様のご計画において最も賢明な決断と言えるのではないでしょうか。

つまり私たちが何をしようが、勝利が私たちのものであろうがなかろうが、最終的な結果は常に神様のものです。これこそが**ローマの信徒への手紙 8 章 28 節**の約束です。
従って、イエスキリストが誰なのかあなたが知っているその知識、神の子であり世の救い主である、の中でまず主を賛美し、それから知恵のために祈り、そして主に信頼することで、**「心を新たにして自分を造り変えていただくのです。」（ローマの信徒への手紙 12:2 より）**

これは分かりづらいものかもしれません。ここでより詳しく説明させてください。

「新たにされた自分」って、いったい何なのでしょうか？
新たにされた自分は頭にではなく、心にあるものです。

エフェソの信徒への手紙 3:17 パウロは**「キリストがあなたがたの心の内に住んでくださいますように」**と祈っています。これこそが新たにされた自分です。キリストをここ（心）に住まわせることです。
では、じゃあ、どうやってその状態になるのでしょう？
それは、信仰を通してです　エフェソの信徒への手紙 3 章 17 節に書かれているのはこのことです。

つまり、新たにされた自分とは、キリストの霊が宿ることによって新しくされることであり、それは信仰を通して実現します。なぜなら、その霊は神を賛美し与えられた恵みに感謝するからです。それが自分の行いによってではなく、信仰の中で恵みによるものだと信じているからです。
イザヤ書　29:13「主は言われた。「この民は口で近づき　唇で私を敬うが　その心は私から遠く離れている。 彼らは私を畏れるが　人間の戒めを教えられているにすぎない。」

では、自分自身に問いかけてみましょう。あなたの“心”は、今どこにありますか？ 主の近くにありますか？もし主の近くにいると思うなら、あなたの賛美は心の中で何に基づいているでしょうか？ルールですか？それとも、本来ここ（心）にあるべきものに基づいているでしょうか？
あなた自身は、それを知っているはずです。

パウロはこのように言います。

誤解その2：DIY（自分でやる）清さ

エフェソの信徒への手紙 1:18~19
「18 心の目が照らされ、神の招きによる希望がどのようなものか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか 19 また、私たち信じる者に力強く働く神の力が、どれほど大きなものかを悟ることができますように。」

パウロは私たちの心の目が照らされるように祈っています。この箇所は他の訳版にも「心の目が照らされる」となっています。不思議な表現ですよね。ギリシャ語でも実は、kardias（心）と書かれています。「心に目がある」というのは確かに不思議に聞こえるため、訳語もいろいろあります。ただ、パウロがここで伝えようとしているのは、私たちの心の中にあるものが光で照らされることです。そして彼はこれを以下の 3 つのことを理解することに例えています。
1.神の招きによる希望
2.聖なる者たちが受け継ぐものの栄光の豊かさ
3.神の力の偉大さ

1.　神の招きによる希望は**テトスへの手紙 2:13** に記されています。
テトスへの手紙 2:13「幸いなる希望、すなわち大いなる神であり、私たちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望む」
エフェソの信徒への手紙に言及された「神の招きによる希望」は最終的にはイエス・キリストその方ご自身において成就するのです。
私たちはただキリストと共にいるように招かれているのではなく、キリストに似た者となるように召されているのです。主は再び来られ、私たちのうちに始められた働きを完成してくださるのです。

2. 聖なる者たちが受け継ぐものの栄光の豊かさは以下に記されています。
コロサイの信徒への手紙 1:11–12「また、光の中にある聖なる者たちの相続分にあずかる資格を、あなたがたに与えてくださった御父に、喜びをもって感謝するように」
この栄光ある相続は、私たちが獲得するものではなく、父なる神が資格を与えてくださったものです。しかも、わたしたちはただ相続を受け取るだけではありません。実は神によって清められた私たち自身が神の相続財産なのです。

3. 神の力の偉大さは以下に表れています。
フィリピの信徒への手紙 3:10「私は、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら」
パウロの願いは、この神の力を自分の人生の中で実際に知ることです。

皆さん、お気づきになったでしょうか、これらの中で私たちの手によって成し遂げられるものは何一つありません。

ここで、冒頭の表現につながって見えてきます。心に目があると考えることはそんなに変なことでないかもしれません。よく考えてみてください。
キリストが私たちの心の目から梁を取り除いてくださったのに、私たちは、なぜ汚れた自分の指をその心の目に突っ込んで、罪の塵を取ろうとしているのでしょうか？

ガラテヤの信徒への手紙はこう言っています。
ガラテヤの信徒への手紙　3:3「あなたがたは、どこまで愚かなのですか。霊で始めたのに、今、肉で仕上げようとするのですか。」

いま私たちの内に “いと高き方”が生きておられるのに、なぜ私たちは自分の力でやろうとするのでしょうか？　それは、私たちが自分のやっていることを「分かっている」と思い込んでいるからです。まだ自

分が賢いと思ってしまう。義のレシピにまだ自分で何かを加えようと考えてしまうのです。
これは私が子どもたちのためにタコス用のメキシコ風サルサを作っていた時の話と似ています。子どもの一人が手伝おうとして、イタリアンシーズニングを入れてしまいました。結果、冷たくてレモンのきいたスパゲッティソースみたいな味になってしまいました。
私たちが忘れてしまっていることがこれだからです。「聖さは受け取るものであり、達成するものではない」のです。

もし道端で人々に、聖くなるとはどういうことかを聞いたら、彼らはなんと答えるでしょうか。一般的な回答はどんなことでしょうか？きっと全部行いによることでしょう。これをして、あれをしなさいなど。
聖書はこのように言っています。
フィリピの信徒への手紙 3:9「キリストの内にいる者と認められるためです。私には、律法による自分の義ではなく、キリストの真実による義、その真実に基づいて神から与えられる義があります。」

もちろん、こう言う人もいます。「でも聖書には、『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者であれ』って書いてあるよ！」
確かにそうですが、ペテロの手紙に書いてあることもまさしく同じことです。
ペテロの手紙一 1:16 に「聖なる者となりなさい。私が聖なる者だからである」と書いてから、22 節に「深く愛し合いなさい」と結んでいます。
互いに愛し合うことこそ、聖さへの鍵なのです。つまり、聖くなりたいなら、まず人を愛することを始めなさいということです。
愛なる神様を賛美したいなら、そしてその御霊をあなたのうちに働かせたいなら、まず人を愛する方法を探しましょう。たとえ最初うまく行かなかったとしても、心配しないでもう一度やってみてください。

もし今日、あなたが愛を優先しようと決めるなら、昨日の失敗はやがて忘れ去られていくでしょう。
さあ、そうしますか？なら今日そのようにすると決断すべきです。誰かを愛するチャンスが来るのを待つのではなく、出会うすべての人を、愛するチャンスにしていくと決めることです。
そうすることで、今日あなたが出会うかもしれない 80 億人のうちの誰かに、神からいただく知恵による行為が表される結果となるためです。

コリントの信徒への手紙一 8:1、覚えていますか？「知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます」この言葉の中の知恵はどこにあるでしょうか？

ここでパウロはさらに祈り続けています。

誤解その3：ただの傍観者

エフェソの信徒への手紙 1:20-23「20 神は、この力ある業をキリストの内に働かせ、キリストを死者の中から復活させ、天上においてご自分の右の座に着かせ、21 この世だけでなく来るべき世にある、すべての支配、権威、権力、権勢、また名を持つすべてのものの上に置かれました。22 また、すべてのものをキリストの足元に従わせ、すべてのものの上に立つ頭としてキリストを教会に与えられました。23 教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方が満ちておられるところです。」

この箇所を読んだとき、私は思いました。パウロはすでにこの手紙の前半で、キリストの至高性を立証していたじゃないかと。そして本当に、キリストがどれほど強く、全能なお方なのかを考えるだけで、当然のことながら、ただ驚くばかりです。
パウロはそう書いている理由はこれです。その名をすべてのものの上に置くことは、既に存在するすべての霊的・人間的支配と権威だけでなく、これから現れるもの、まだ知られていないものさえも含んだすべての名の上に立つことを意味するからです。そしてこれからもっと多くのものが現れてきます。

私たちがキリストの霊を宿し、神の愛をこの地上で表すとき、神の御国がその時その場所に現れるように、悪しき者たちもまた、地上でサタンの策略を現実化する時、悪の王国をもたらします。

これをイエスは、麦と毒麦のたとえで語っておられます。
マタイによる福音書 13:37-40「37 イエスはお答えになった。『良い種を蒔く者は人の子、38 畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。39 毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り取る者は天使たちである。40 毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。』」

映画やゲームでもよくあるように、本当の敵は、目の前の人間ではない。背後にいる悪魔なのです。この戦いは私たちが毎日向き合う、終わることのない必然的な霊的戦争です。毒麦は、常にこの世に存在し続けます。

マタイによる福音書 13:28-30
「28 僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、29 主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。30 刈り入れまで両方とも育つままにしておきなさい…』」

だからこそ、主は言われるのです。彼らは最後に裁かれると。
でも私たちはその間何をすればいいのでしょうか。

パウロは続いて**エフェソの信徒への手紙 6:11-12** にこのように書いています。**「11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるように、神の武具を身に着けなさい。12 私たちの戦いは、人間に対するものではなく、支配、権威、闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊に対するものだからです。」**

しかし、この神の武具も、エフェソの信徒への手紙 1 章の最後に語られている信仰により持つものが何かを理解せずには、無用なものとなります。
キリストは、天において父の右の座に着き、すべてのものの上におられます。

でも、それだけが終わりではありません。
パウロは、「また、すべてのものをキリストの足元に従わせ、すべてのものの上に立つ頭としてキリストを教会に与えられました。23 教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方が満ちておられるところです。」と言っているからです。

お分かりいただけたでしょうか。もし「すべてのもの」がキリストの足の下にあるなら、そして教会がキリストのからだであるなら、つまり「すべてのもの」は、教会の足の下にあるということです。

教会のみなさん、気づいてください。このみことばを信じて歩まない限り、キリストにあって自分たちが持っている力を見ることはありません。
それは第一条件節なのです。というのも、それは事実だからです。あなたがたはただそれに応じて生き、息をすればよいのです。
あなたはそれを信じますか？もし信じるなら、今どのように主を賛美できるでしょうか。

結論

誤解に惑わされてはいけません！力を得るためにより多くの知識は必要ありません。なぜなら、その力は彼のからだである教会の中に存在するからです。
私たちはキリストを知っています。ですが、知ることは戦いの半分にすぎません。教会の力は、一つになって行動するときに、シナジー効果を発揮します。だからこそ、新約聖書に団結という言葉がくり返し語られているのです。
ここに真理があります。教会が共に賛美し、共に祈るとき、そこに力が現れます。

使徒言行録 4:24、31「24 これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声を上げて言った。『主よ、あなたは天と地と海と、そこにあるすべてのものを造られた方です。』31 祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、堂々と神の言葉を語りだした。」

そして、教会が互いに愛し合うとき、教会は成長し、さらに大きな力がそこに現れます。
使徒言行録 2:42-47 では、教会は互いに献身的に仕え合い、食事を共にし、必要のある人々に物を分け与えていました。これは単なる「教会の中のこと」ではありませんでした。それは社会にも影響を与えたのです。
この箇所は最後に、「神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。」と結んでいます。
そしてその結果はこれです。「主は救われる人々を日々仲間に加えてくださったのである。」

私は何人もの人からこう聞いてきました。TBC に初めて来たとき、この教会にとどまる決め手になったのは、この交わりにあふれていた愛の霊でした、と。
もしあなたが力を望むなら、まずは互いに目を向けてください。主をともに賛美し、ともに主のみ名を呼び求め、主の体である一人一人を愛してください。
そうすれば私たちは、神の偉大なみわざを体験することになるでしょう。この建物、そして次の建物さえも超える成長を見ることになるのです。

招き
もしあなたが神の御子イエス・キリストを信頼し、永遠のいのちのために信じるなら、あなたもまた、神の復活の力を体験することができます。
あなたの罪は赦され、心は新たになり、喜びと、尽きることのない愛が与えられるでしょう。そしてあなたは、神の御霊と誠によって、生ける神を賛美する人となります。

祈りましょう。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg3125jp

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト&印刷

（女性 3 名募集）

英語のスキルは必要ありません。

・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。

***スキル：MS Word の操作ができる方。**
***TBC の教会員であることが必須です。**

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 7 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
霊的に成長するために
9 月21日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方

★クラス 210
スモールグループトレーニング
10 月 4 日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：
https://t-b-c.us/classes